

## 国際結婚と日本社会

キロリン・ホダー

はじめに

年々日本では国際結婚する人の数が増えている。昭和40年には(1965)国際結婚(日本人と外国人の間の結婚)の数は、4156組で平成6年には(1994)25182組に増えたのである。ほとんどの国際結婚は日本人の男性と外国人の女性である。例えば平成6年には25182組の国際結婚の中、19216組は日本人の男性と外国人の女性との結婚である。(平成6年の統計は一番新しい)

言うまでもなく国際結婚の数が増えるにつれて永住する外国人の人数も増える。つまりこの研究の目的は日本人と結婚している外国人の日本で生活の調べることである。まず日本人と結婚する前の日本で生活と日本人と結婚した後の日本で生活がどういうふうに変わっている。たか、特にその外国人に対して日本人との結婚ことが決まった後、日本人の態度と考え方が変わっている。たか、次に在日期間が長く日本人と結婚している外国人が日本にまだ違和感を感じているか、日本社会に溶け込みたいという気持ちが周りに受け入れられているかについて調べ、一方で同僚の日本人と結婚している外国人と同僚の日本人と結婚していない外国人に対する日本人の意見は違うか、もし違ったら、どう違うかを調べてみる。さらに日本人が同僚の日本人と結婚している外国人に対してどういう考えを持っているか、日本社会に入る条件として何が大切に思っているということについても調べる。

日本にいる外国人の多くは在日期間が短い。法的に拙身の外国人の場合、長期在日は難しいと言。てもよいと思う。帰化する以外の場合でも(帰化をするには日本人の名前に変更しなければならぬ)永住権を持ったためには二十の在日期間が必要であると聞いたことがある。(外国人の男性には特にこの基準が厳しいと言われる)とにかく外国人が日本社会に受け入れられにくく理由として早く帰国する外国人が多いことが挙げられると思う。また日本人の子供が幼い頃からしつけられる「うち」と「と」という概念が関係しているかもしれない。「うち」と「と」というのは、まず家のそれいさと外のところとが関連して「と」は他人がいる場所で「うち」が「と」として日本人の行動が非常に違うと一般に言われる。在日外国人の問題点の一つはこうした「うち」に入れるかということである。この概念でなぜほとんどの外国人の在日期間が短いかを十分説明できるかどうかは別として、私が関心を持っているのは一般の外国人に比べれば日本人の配偶者を持つ外国人がどの程度日本社会に入り易くなるかということである。

日本では結婚がまた強く機能しているのだからどの程度こういう日本人の考え方が国際結婚に影響を与えるか、次は外国人が日本人と結婚することによってどのようにまでの関係に影響するのだからこの研究でできるだけ、このようなことを考えたいと思う。

## 調査の方法

このようなテーマに参考にできる本が少ないため、国際結婚についての質問を作成し、その後アンケート調査を行った。一つは、20-45 年齢集団の中の日本人に配布した。この年齢集団に注目することになり平均的な傾向が見えると思つたからである。そしてもう一つは、日本人と結婚している外国人に配布した。その外国人が結婚してかゝるどういうふうな日本人との関係が変つてきたのかを調べるため、結婚前に2年以上の在日期間を持つ人に限つた。このアンケートに答えた外国人は多くは広島県と大分県に住んでいる。また、今回アンケートを配たのは英語を母語とする外国人に限つた。それは外国人に対してのアンケートが英語で回答する形をとっていることによる。結果的にアンケートに答えてもらったのはすべて西洋人となり今回は東洋人は含まれていない。

## 日本人に配布したアンケートの結果

グラフIとグラフIIは、外国人が日本人と結婚しているかいないかによって、その外国人に対するあなたの態度と考え方に違いが出ると思ひますか、という質問の答えを表す。この質問に答えた33人の中19人(58%)は「態度と考える方に違いが出ると思ひます」と答へ、14人(42%)は「態度と考える方に違いが出ると思ひません」と答へた。この14人以上の質問に関してどういうふうに態度と考える方が変わるのかを調べるために以下に示す6つの項目よく当てはまるか当てはまるかあまり当てはまるないか全然当てはまるないの中からそれぞれの項目一つを選びように聞いた。

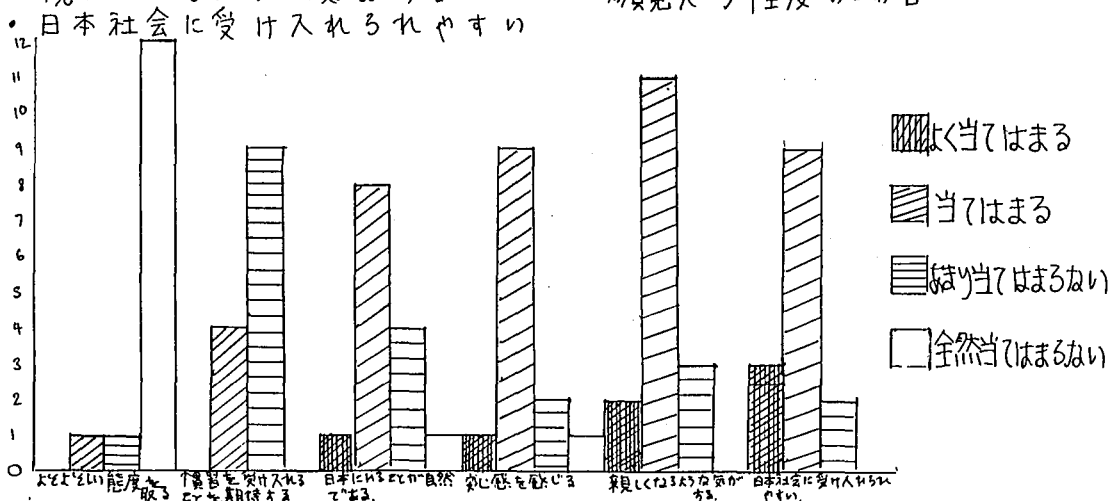
次の6つが質問した項目である。

(日本人と結婚していない外国人よりも、日本人と結婚している外国人に)

- よそよそしい態度を取る
- 日本社会の慣習を受け入れることを期待する(例:敬語の使用、お歳暮)
- 日本にいたことが自然である
- 安心感を感じる
- 親しくなるような気がする
- 日本社会に受け入れられやすい

顔見知り程度の場合

グラフI





(4)

結婚している外国人は日本社会に受け入れられるわけではなく、日本人と結婚している外国人は日本社会に受け入れられやすくなるということを示す。

他の国より、日本ではこの傾向が特に強いと考えられるのは結婚という制度が西洋の国より重要に思われて「うち」と「そこ」の違いが激しいため外国人は日本社会に受け入れにくいと思われるかもしれない。

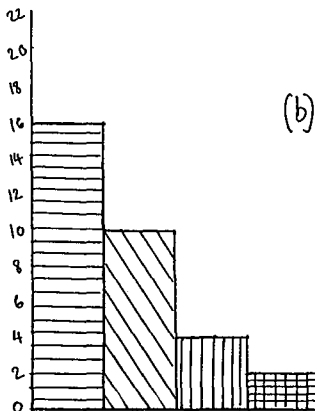
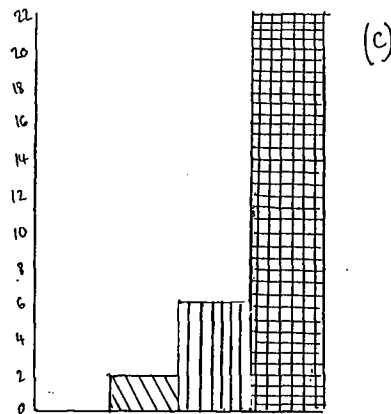
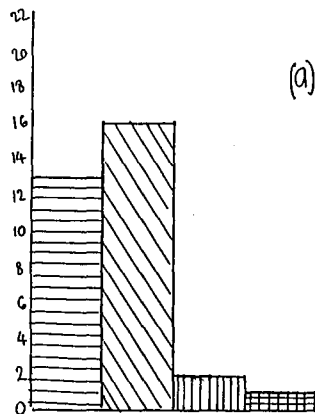
以上に述べたことについては「おは」外国人が日本人と結婚しているかいないかによって、その外国人に対するあなたの態度と考え方に違いが出ると思いますかという質問に「はい」と答える、<sup>19</sup>「違いが出ると思わない」と答えたが次の質問は全員が答え、同じような傾向が見られる。

次の質問は以下のように聞いた：

「日本人と結婚している外国人は日本人と結婚していない外国人よりも-

- (a) ・日本社会の一員として受け入れられやすい。
- (b) ・日本社会に溶け込みやすい。
- (c) ・日本社会に対して尊敬である。

結果は次のように：



- そう思う
- 少し思う
- あまり思わない
- 全然思わない

(a)の結果は、前の質問の通りである。<sup>26</sup>3はある程度、日本人と結婚している外国人は、日本社会に受け入れられやすいというふうに答えた。それに<sup>26</sup>3は、日本人と結婚している外国人は日本社会に受け込みやすいというふうに答えた。最後に(c)の結果は、日本人と結婚している外国人は一般の日本に在る外国人よりも日本社会に対して脅威であることではないというふうに答えた。

今まで見た結果は、日本人と結婚している外国人と一般の日本に在る外国の比較である。結果は、ある程度日本人と結婚している外国人よりも日本人と結婚している外国人は日本社会に受け入れられやすい、受け込みやすい、個人的なレベルに安心感を感じ親しくなるような気がし、日本に在ることが自然などというように見なしたに違わぬだろう。しかし日本人と結婚するということは他の条件に比べると日本社会に認められるような順番はどうなるのだろうか。

次のように聞いた: 『外国人が日本に在ることが日本社会に認められるために大切だと思われるものに付けて下さい』

以下の表はこの質問を表す。

条件	シを付けた人数	川頁番
日本に役に立つような仕事	9	3
日本語の能力	31	1
在日期間	13	2
日本人と交流の多さ	2	5
外国人の国籍	1	6
日本人の配偶者との間に子供がいるかどうか	3	4

ごらんのように日本人と結婚するということの順番に5番になり、日本語の能力は圧倒的に一番大切なことである。これは日本人と結婚することは大切でないわけでないが日本人にとって言葉が通じないと怖く思われるかもしれない。2番目は在日期間である。これは在日期間が長ければ日本の習慣に慣れている、日本が好きであるし、しとなるのではないかと。以上がこの質問からどういう結果に分かれたことの分析である。

## 外国人に配布したアンケートの結果

外国人に配布したアンケートの目的は日本人と結婚してか、どのように日本人の（その）外国人に対して態度が変わったか。三つの場合について聞いてみた。その三つは友達の場合、仕事の仲間、近所の人である。そしてその三つの場合について三つの質問をした。

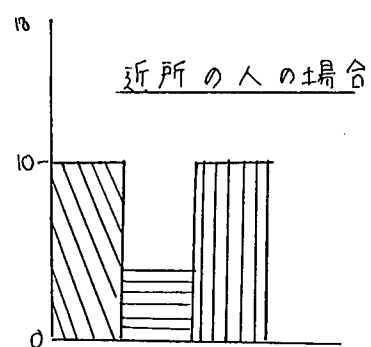
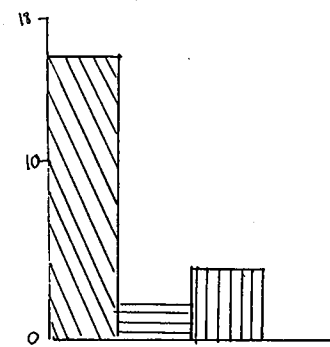
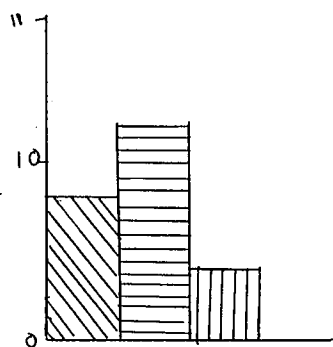
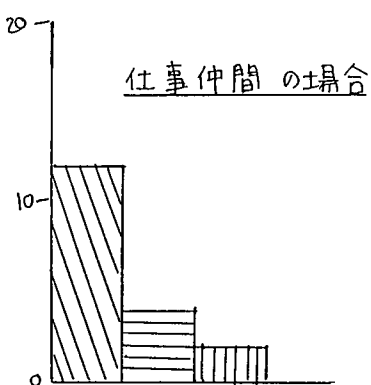
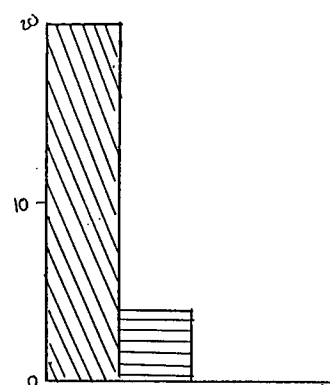
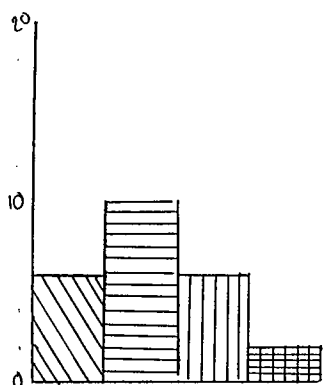
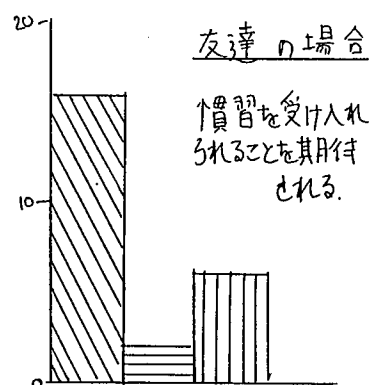
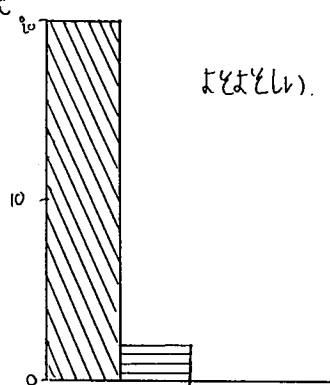
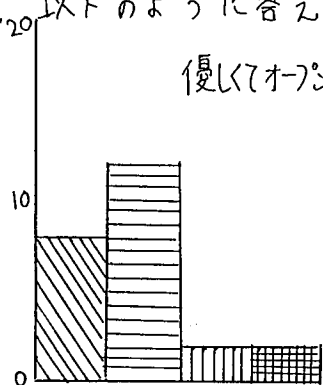
質問は次のように聞いた：『日本人と結婚することが決ま、てからどのように日本人の態度が変わったか』

(a)より優しくてオープンになったか

(b)よりよそよそしくなったか

(c)日本社会の慣習を受け入れられることを期待されるようになったか

以下のように答えた





	よく 当てはまる	当て- はまる	少し 当てはまる	全然 当てはまる
日本社会に参加する機会が増えるからである	4	4	12	4
日本人と結婚しているあなたに対して態度が変わったからである	4	4	10	4
日本人は一般の外国人より日本人と結婚している外国人に対してより親しくオープンな態度を取るからである	2	6	6	8

ここでとても面白いと思うのは<sup>8/12</sup>は「日本人は一般の外国人よりも日本人と結婚している外国人に対してより親しくオープンな態度を取るからである」という理由に「全然当てはまるなり」と答える一方<sup>12/20</sup>人は「日本人と結婚しているあなたに対して態度が変わったからである」という理由に「少し当てはまる」と答えているが態度がどういふふうに変わったかのなるうか。ごらんのように日本社会に参加する機会が増えるからである」という理由に<sup>12/20</sup>は「少し当てはまる」と答えた。ここで面白いのは社会的な理由とするよりも日本社会に参加する機会が増えたこと（当たり前の）を日本社会に受け入れられ易くなることの理由としてしていることである。

最後にこの質問を聞いた「外国人が日本社会に受け入れられるためには何が大切だと思うか」こういうふうに答えた:

	一番 大切	二番 大切	三番 大切	四番 大切	五番 大切
日本人と結婚する	0%	14%	43%	29%	14%
在日期間	15%	57%	0%	14%	14%
日本語の能力	71%	16%	13%	0%	0%
国籍による	14%	0%	30%	13%	44%
日本人の自己偏見との関わりがあるかどうか	0%	14%	14%	25%	45%

日本人が答えたように日本語の能力は一番大切となり在日期間は二番目となった。だから両方の意見による日本人との結婚は日本社会に入れられる方法としてはまず日本語の能力が必要で次在日期間となりこれらが結婚することより大切に見られるのではなからうか。



## 結論

この二つのアンケートから日本社会についていることが見られると思う。最初に日本人に配布したアンケートは58%は外国人に対して日本人と結婚しているかいないかに区別しないというふうに答えた。一方区別するというふうに答えた人の中、二つの傾向が見える。一つは日本人と結婚している外国人に対してより安心感を感ぜ、より親しくなるような気がする日本社会に受け入れられ易いという点。もう一つは日本社会の慣習が受け入れられることを期待するという点だ。この傾向は親友連の場合の方が顔見知り程度の場合よりも目立つようである。

日本人に配布したアンケートは1983が「外国人は日本人と結婚しているかいないかによって態度を考へ方に違ひが出ると思われない」と答えたのに日本人と結婚している外国人が日本人と結婚していない外国人よりも日本社会の一員として受け入れられ易く、日本社会に溶け込み易くなるかという質問に29%と26%は「そう思う」と答えた。ここに矛盾があるように見えるかもしれない。

日本人と結婚している外国人がなぜ日本社会に受け入れられ易いのかというと、共通の話題が増え、社会的な位置付けが易くなり日本人の考え方がある程度理解でき、在日期間が多くの場合長く、ある程度日本が好きという理由が考えられる。

このアンケートで気を付けなければならぬのは20-45年令集団がすべての人の意見を代表しているかどうか分らないということだ。それに本島には外国人が多いので本島に住んでいる日本人の意見が一般の日本人の意見を代表しているかどうか分らない。

外国人の方は86%が日本人と結婚することによって日本社会に受け入れられ易くなったと答えたが66%は日本人と結婚しているにもかかわらずまだいと思う気持ちがあり受け入れられていないと答えた。挙げた理由は例えば日本人の集団意識や日本社会は外国人を受け入れにくい文化が非常に違う、日本社会の複雑な習慣などである。外国人が結婚することが決まれば日本人の態度が変わるが「少し」と言ってもよいと思う。または外国人はその日本人の友達の場合に態度があまり変わるなかった。と言ってもよいかもしれない。

このアンケートの結果を合わせると自令自身というものの、個人的なレベルでは日本人と結婚することはあまり大切に思われていないようである。しかし社会的なレベルでは日本人と結婚することが日本社会に溶け込む大切な条件になるかもしれない。(他の条件は例えば日本語の能力や在日期間の方が大切かもしれない。)

国際結婚というのは他の問題にもつながり、外国人はいつまでも「外国」という名前を付けたまま日本社会の中にいるのか、日本人と外国人の間にある境界を国際婚は私達に意識させ、もう一度考え直すことを促す。

参考文献

1. 澤木 俊郎他 1990 「わかりやすい国際結婚と法」 有斐閣 リブレ  
25
2. ヤンソン由実子 1981 「国際結婚, 愛が国境を越えるとき」  
php 研究所
3. 季刊ちゃんそり 1984 「季刊ちゃん」 No2-6 編集委員会
4. Karl Van Wolferen , The Enigma of Japanese Power. London  
(1989)
5. Doi Takeo , The Anatomy of Self. Tokyo: Kodansha International  
(1988)